

令和5年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

資料No.1

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
1 新規就農者の確保・育成				1 新規就農者の確保・育成 <u>A</u> 評価 入学者数は減少したが、学力向上、資格取得や就農・就職支援は概ね目標を達成していることからA評価とした。
1.1 意欲ある学生の確保	1 学生の確保 ・令和6年度本科入試志願者 70名(前年63名) ・令和6年度本科入学者 60名(前年53名)	・令和6年度本科入試志願者数 44名 ・令和6年度本科入学者数 農産園芸学科 30名 畜産学科 10名 合 計 40名	① 高校訪問による募集活動 ・県内高校及び実績校等への訪問(県内全校訪問、随時) ・県外農業系高校への訪問の継続(青森、秋田、宮城) ② 各種説明会出席及び教職員との交流	1.1 意欲ある学生の確保 B 評価 学生の募集活動や学校情報の発信など学生確保に鋭意取り組み、オープンキャンパス参加者数も昨年度並みであったが、入学者数は昨年より13名少ない40名となり、B評価とした。今後は県内外の高校への働きかけの強化、学校情報発信の強化、施設整備により、学生数確保を進める。
	2 本校の教育内容に興味を持つ高校生の確保 オープンキャンパス参加者 100名程度 (50名×2回)(前年合計75名)	オープンキャンパスへの参加者の確保 ・本科定員70人に対し参加者合計72人	① オープンキャンパスの開催(7、8月に2回) ② 農大からの情報発信活動の強化(HP、Instagram、各種広報媒体、進路情報ソールの活用) ③ 新しい農業技術(スマート農業及びGAP、HACCP)のPR ④ 受験機会の確保(一般前期試験日程の繰り下げ、高校既卒者の高校推薦を受理、4年制大学への3年次編入実績の紹介)	・学校アンケート結果 (1-1)学生募集活動 A (1-2)諸経費の額等 A (1-9)入学満足度(学生、父母等) A
1.2 応用力を磨く教育の提供	1 実践的農業技術と経営基礎知識の理解促進 (1) 実践的な資格等の取得 【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者60%(前年57%) ② 大型特殊免許 50%(前年42%) ③ けん引免許 25%(前年18.5%) 受験者に対する取得者の割合 ④ 日商簿記検定3級30%(前年0%) 【農産園芸学科】 ① フラワー装飾技能証(実技)合格率 100% 【畜産学科】 ① 畜産学科2年生全員が家畜人工授精師免許を取得 ② 畜産学科2年生の内、受験希望者が2級認定牛削蹄師認定試験に合格 (2) 学科ごとの取組目標 【農産園芸学科】 ① 主要品目の栽培管理技術向上(1年生) ・プロジェクト研究の実施、発表 実施学生の割合 100% ② 経営基礎知識の理解促進(2年生) ・経営関係科目の評価 良 70%	【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者(高校在学中の取得者を含む。) 2・3級取得率 29%(30名/103名)うち2級5名 ② 大型特殊免許 48%(45名/102名) (内訳)大特31名、大特(農耕用)14名 ③ けん引免許 21%(21名/102名) (内訳)けん引6名、けん引(農耕用)15名 ④ 日商簿記検定3級 0% 【農産園芸学科】 ① 全学生(3名)が合格(達成) 【畜産学科】 受験者に対する取得者の割合 ① 15名受講し全員が合格 ② 4名受験し全員が合格 【農産園芸学科】 ① 全学生がプロジェクト研究に取り組んだ。発表は一部経営科が未実施。 ② 授業のほか、事例研究や卒業研究の取り組みにおいて経営管理の理解促進を図った。成績は良以上100%。	【共通】 ① 日本農業技術検定 ・受験機会の確保(6月、1月校内会場で実施) ・受験対策(希望者に対する過去問の提供) ② 大型特殊免許、③けん引免許 ・受験機会の確保 ・受験時期の分散 ・受験対策 説明会、実技練習、練習精度の向上 【農産園芸学科】 ① フラワー装飾 課外授業(5〜6月、16回、60hr.) 【畜産学科】 ① 岩手県が開催する家畜人工授精に関する講習会を受講 一部、畜産概論や家畜繁殖などの科目は通常授業で実施 ② 日本装蹄師協会が開催する2級認定牛削蹄師認定講習会を受講 専攻実習Ⅱにおいて削蹄実習を実施 【農産園芸学科】 (農産) ① ・水稻の栽培管理と生育調査手法指導 ・水稻収量、玄米品質および解析手法の指導 ・プロジェクト研究内容を取りまとめたパワーポイント作成。 ② ・農業経営学習の参考になる経営体への事例研究実施 ・卒業研究における経営評価の実施 ・農大祭における餅販売を通じた消費者ニーズ把握の実習	1.2 学力の向上とスキルアップ A 評価 資格取得については、農機免許等は目標値にやや及ばなかったものの昨年度より取得率が向上し、また経営科ごとの資格では受験者全員が合格するなど、成果を上げることができた。 卒業研究は全員が成果のとりまとめと発表まで実施した。全国農大意見発表会出場のほか、ヤンマー懸賞作文において金賞及び銅賞、県農林水産部政策提案型調査研究コンテストにおいて優秀作品3位、学生グループ最優秀賞を受賞するなど、課題解決能力や実践的なスキルの向上に成果があった。 また、1名が四年制大学への編入を実現した。 以上のとおり、学力向上とスキルアップへの取組の成果が認められたことから、A評価とした。 ・学校アンケート結果 (1-3)資格取得の指導体制について、カリキュラム 【農産園芸学科】 各経営科が各々の手法により基礎知識の習得や経営管理手法の理解促進に努め、ほぼ目的を達することができた。(A)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
	【畜産学科】 ① 酪農 経営目標:販売額19,000千円の達成 作業マニュアルや衛生管理文書等の沿った飼養管理、搾乳の実践による、出荷乳量の確保及び高品質な生乳の生産 ② 肉畜 経営目標:販売額8,752千円の達成 作業マニュアルや衛生管理文書等の沿った飼養管理、疾病の発生予防、子牛の事故防止	【畜産学科】 ① 酪農 販売額:20,489千円(達成) (1年生) 家畜当番作業マニュアルに沿った飼養管理、搾乳方法等を習得。 (2年生)衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理を習得。 ② 肉畜 販売額:6,845千円(未達成) (1年生) 家畜当番作業マニュアルに沿った飼養管理、肥育方法等を習得。 (2年生)衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理を習得。	(野菜) ①・専攻実習での栽培管理技術及び生育調査方法の指導 ・秋冬野菜を対象としたプロジェクト研究の実施、発表 ②・卒業研究を通じた経営試算方法の習得 ・経営を学べる事例研究の実施 (果樹) ①・りんご生育、生態調査手法の指導 ・専攻実習での果樹管理技術指導 ・生育、態調 査結果のポスター発表(農大祭) ②・事例研究実施(県内 2回、県外 2回) ・経営の視点を意識させた技術指導 (花き) ①・ストック八重鑑別技術及び八重率調査指導 ②・事例研究(県内3回、県外 1回) ・実習品目の 生産費 計算 【畜産学科】 専門科目の履修と単位習得 ・家畜飼養管理Ⅰ・Ⅱおよび専攻実習Ⅰ・Ⅱで飼養管理の知識と技術を指導 ・農場HACCPシステムへの理解醸成と作業分析シートに基づく作業手順を指導 ・飼養管理の理論と実習 ・衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理の指導。	【畜産学科】 肉畜において販売額が目標を下回った原因は子牛価格の低迷にあり、専門科目の履修、単位習得については達成済。 (A) ・学校アンケート結果 (1-4)事例研究・農家派遣実習等の教育体制整備 A
	2 課題解決能力の向上 【農産園芸学科】 ① 課題解決に向けた卒業研究計画の作成(1年生) ・2月末までに案作成、3月末までに完成 100 % ② 卒業論文の完成(2年生) ・成績 評価 良以上 80 % (前年度の成績を参考に設定) ・東日本発表会への出場 2名以上(農産園芸)	【農産園芸学科】 ① 全員が3月までに卒業研究計画を作成した。 ② 全員が締め切りまでに卒業論文を完成させた。成績は良以上100%。 東日本発表会への出場3名全員が農産園芸学科学生となった。うち1名が全国発表会に出場、優良賞を受賞。	【農産園芸学科】 (農産) ①・研究課題設定のための情報収集指導(農家派遣実習や帰省時)、プロジェクト研究とりまとめを通じデータ集計の指導、計画作成指導(随時)、科内計画検討会(2月) ②・研究実施指導(随時)、研究とりまとめ指導(随時)、中間検討会(7月)、科内検討会(12月) (野菜) ①・課題選定に向けた個別面談の実施(11月～12月、2回)、計画作成指導(12月～3月) ②・研究実施指導(随時)、発表資料作成、方法指導(随時)、発表優良事例の紹介(1月～2月) (果樹) ①・研究課題設定に向けた情報収集指導(随時)、データ集計グラフ作成の基礎指導(随時)、計画作成指導(随時)、科内計画検討会(2月) ②・研究実施指導(随時)、研究とりまとめ指導(随時)、中間検討会(9月)、科内検討会(12月) (花き) ①・テーマ設定に向けた情報収集等指導(1年生9～12月)、計画作成指導(1年12～2月)、試験区設置指導(1年3月～2年6月) ②・調査手法及びデータ集計指導(2年生3～10月)、結果の分析と考察、集録作成指導(2年生11～1月)	【農産園芸学科】 卒業研究計画作成、卒業論文完成とも目標を達成し、内容もおおむね満足できる結果となった。(A)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
	【畜産学科】 ① 酪農・和牛一貫経営の現状理解とプレゼン手法の習得(1年生) ・ワイルドカップ 2023 学生グループ部門最優秀賞等 ② 課題解決力の習得とプレゼン手法の習得 1年生:全学生が卒業研究課題を発表 2年生 ・東日本農業大学校等プロジェクト発表会出場1名以上(畜産) ・全国農業大学校等プロジェクト発表会出場 1名以上(畜産)	【畜産学科】 ① ワイルドカップ2023において、優秀作品第3位及び学生グループ部門賞を受賞 ② 全員が卒業研究課題に取り組み12月に校内発表	【畜産学科】 ① ワイルドカップ 2023 への参加(1年生) ・2021、2022 本校入賞作品の学習(5月) ・発表までのプロセス習得(6月) ・タイトル決定、スライド作成(7月) ・ワイルドカップ 2023 出場(8月) ② プロジェクト発表会対策 ・1年生 卒業研究課題の選定(11 月までに)卒業研究計画発表会(3月) ・2年生 卒業研究の実施・まとめ(4月～11 月)学科・校内発表会 12月。東日本プロジェクト発表会(1月)全国プロジェクト発表会	【畜産学科】 校内だけでなく県農林水産部が主催するワイルドカップにも参加したことで、学生の課題解決能力やプレゼンテーションスキルが大幅に向上。(A) ・学校アンケート結果 (1-5)課題解決能力の向上に効果的な指導 A
	3 先進的な農業技術に対応した教育の充実 【農産園芸学科】 ① ASIAGAP の理解促進 ・ASIAGAP 認証の維持 ・「GAP 概論」の成績評価 良以上 80 %(1年生) ・GAP 事例研究の レポート 評価点数平均値 70 %以上 ② スマート農業の理解促進 ・「スマート農業」の成績評価 良以上 80 %(2年生) ・スマート農業機器の見学会 のレポート等評価 点数平均値 70 %以上 【畜産学科】 ①1年生 2月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%以上マスター) ②2年生 10月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%以上マスター) ③職員 ・人事異動の職員が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%マスター) ・認証更新(JGAP7月、農場HACCP1月)、PDCAサイクルによる当校農場HACCP及びJGAPシステムの検証	① GAP概論の評価は良以上95%であり、理解が図られた。学生及び職員の取組の結果、ASIAGAP認証が維持された。 ② スマート農業の成績評価は良以上100%。 【畜産学科】 ① 概ね達成できた。 ② 概ね達成できた。 ③概ね達成できた。	① ・職員のASIAGAP 取組の理解(通年) ・審査に向けた取組内容書類確認 ・職員による ASIAGAP による取組の実践(通年) ・内部監査の実施(8月) ・学生への ASIAGAP 取組の説明(マニュアル配布と指導(4月) ・学生への作業、体調確認掃除記帳指導(随時) ・学生への各種手順書配布と指導(随時) ② ・専攻実習、スマート農業でのスマート農業技術の紹介 ・新 KSAS の活用法、作業記録法の 指導 (農産) 【畜産学科】 ①1年生 ・農場HACCP:飼養管理 I (概論)で詳細に指導 ・GAP:「GAP概論」及び飼養管理 I (概論)で指導 ②2年生 ・農場HACCP:飼養管理 II 内でHACCP計画や記録付け等を指導。また専攻実習 II で特定事項の備えの通報演習や記録付けの実地。月1回学生からの提案を受け、HACCP会議で検討(4～10月) ・GAP:飼養管理 II で労働安全やアニマルウェルフェアの説明、専攻実習 II で現場の労働安全確認やアニマルウェルフェアのチェックなど(4～10月) ③職員 ・農場HACCP及びJGAPに係る研修会への参加等(通年) ・認証更新審査	授業のみならず、整理整頓や記帳などの実践指導が理解促進に有効であったと考えられる。(A) スマート農業に関心の高い学生が多いことから、理解も深まりやすいと考えられる。(A) ・学校アンケート結果 (1-5)課題解決能力の向上に効果的な指導 A
	4 学習支援の充実 ① 基礎学力の養成 ⇒1 年終了時までに ・課外授業出席率 80% ② 農業分野に必要な数的処理力の養成と定着⇒卒業までに ・卒業論文の成績評価 良以上 80% ③ 進路実現に向けた学力の定着⇒編入学試験までに ・ 4年制大学編入学合格率 100%(前年 67%)	① 概ね達成できた ② 概ね達成できた ③ 4年制大学編入学合格率 50%(1名合格/2名中)	① 初年度教育の支援 ア 基礎学力試験の実施(4月 学力把握) イ 課外授業の実施(数的処理力養成、5～6月、5回) ウ レポート作成指導(「農業基礎」ほか、随時) ② 農業分野への就業に向けた学力定着の支援 ア 専門知識の定着に向けた演習指導(日本農業技術検定)と検証 イ 数的処理力指導(濃度計算、施肥設計、飼料設計等)随時 ウ データ処理指導(卒業研究等を中心) ③ 大学編入学希望者への支援 ア 編入学にかかるガイダンス(1年生対象、6月中旬) イ 英語・小論文対策(1年生対象、20回程度) ウ 面接指導(2年生対象、志望大学に応じて随時)	課外授業の実施により、学生の基礎学力が養成された。また、4年制編入学試験に1名合格となった。(B)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
1.3 豊かな人間性の涵養	1 組織的な自主活動と協働の促進 (1) 学生自治会活動の活性化 ・年間活動計画作成 1件 (2) 自治意識の醸成 ・他農大生との交流 1回(東日本球技大会 等)	(1) 4月に作成し、計画的に事業を実施した (2) 東日本親善球技大会(5/23-24)に参加し、交流した	(1) ・自治会主催行事の運営指導(年間計画、役員会開催計画作成) ・自治会予算の自主的執行指導 ・クラブ等活動促進 (2) ・各委員会による事業の自主運営指導 ・他農大学生との交流促進	1.3 豊かな人間性の涵養 A 評価 学生自治会の取組に支援しながら、行事や学生生活改善に取り組むことができたことから、A評価とした。 ・学校アンケート結果 (1-7)自治会活動支援体制 A
	2 教育相談体制等の強化 学生支援相談チーム(教育部長直轄)が常時機能	・ カウンセラーの守秘義務の範囲内で担任との情報共有がなされるなど、概ね達成できた。 ・ 支援が必要な学生について、必要に応じ相談体制を組み立てるなど概ね達成できた。	①職員のスキルアップのための研修と OJT ②スクールカウンセラー相談日の設置(年間35日)及び周知 ③担任会議の早期開催による情報共有 ④就職支援相談員による進路の個別面接指導 ⑤学生支援相談チームによる情報共有及び継続的支援 ⑥支援の評価・改善	
1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進	1 進路の早期決定 ① 進路希望調査を実施 3回	達成できた。	① 進路希望調査の実施(4月、7月、12月)	1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進 A 評価 学生及び父母等との個別相談実施などにより希望進路を的確に把握し、支援体制を組んで取組んだ結果、希望者全員の進路を決定することができたことから、A評価とした。 ・学校評価アンケート結果 (1-8)進路指導体制 A
	2 就農促進 ① 就農希望学生の就農計画策定 100% ⇒2年生2月までに ※1、2年とも夏休み前後の進路希望調査結果を基準とする。 ② 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) 50%	① 達成できた。 ② 達成できた。 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) <u>55%(27/49)</u>	① 就農希望学生の指導経緯の情報共有 ② 就農希望学生に対する就農計画作成指導及び関係機関等との連携強化 ③ 就農準備資金の活用による就農支援 ④ 地域懇談会(優良農業者や地域機関と情報交換、研修等の実施)への出席(1年全員、2年就農等対象者) ⑤ 雇用就農希望学生向け「オープンファーム」及びインターンシップへの参加誘導(全校) ⑥ 雇用就農、農業団体希望学生向け農大OBからの説明会「進路応援ゼミ」の開催(11月)	
	3 就職指導の強化 就職希望者の内定率 100%(前年97%)	就職希望者の内定率100%(内定者40名/就職希望者40名)	① 就活ゼミの実施(1年生7回、2年生課外5回) ② いわて就職マッチングフェアへの参加促進 ③ 個別面談による進路決定、決定進路へ向けた書類、面接指導 ④ 雇用就農希望学生に向け、インターンシップへの参加を誘導 ⑤ 農大OBから在校生へのメッセージ「進路応援ゼミ」(11月)の開催	
	4 進路開拓への取組強化 団体組合8社以上、民間25社の訪問	概ね達成できた。 組合、団体8団体 民間企業25社	① 企業、事業所等訪問先の拡大(特に農業法人) ・ 7月中に団体組合9社、民間25社以上を訪問 ・ 個人情報であることも踏まえつつ、離職状況も把握 ② 求人企業の確保(農業法人含む) ・ オープンファームへ参加した企業にも積極的に訪問し、企業状況と学生のマッチングを促進	

令和5年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
2 多様な担い手の育成				2 多様な担い手の育成 A 評価 社会情勢や前年までの要望等に応じて研修を実施し、研修回数、研修受講者及び花きセンター来場者とも概ね目標達成できたことから、本年度の自己評価をAとした。
2.1 農業の担い手育成	1 就農希望者・新規就農者の育成 就農に必要な識基礎的知識や技術の習得と営農上の課題解決能力や経営管理能力の向上 ①新規就農者研修[入門コース(野菜、花き)] ・野菜コース:修了証書授与率 80% ・花きコース:終了証書授与率 100% ※基準は、各コースとも出席率 70%以上 ②新規就農者研修[基礎コース] 修了証書授与率 100% ※基準は、出席率 70%以上	① 新規就農者研修[入門コース(野菜、花き)] ・野菜コース修了証書授与率 72%(37/47名) ・花きコース修了証書授与率 80%(4/5名) ②新規就農者研修[基礎コース] 修了証書授与率 100%(21/21名)	円滑な就農に向け、県内主要品目を中心に基本的管理・知識習得を進める講義・実習を実施 ①新規就農者研修[入門コース(野菜、花き)] ・野菜コース(定員80名) 講義10回(5～9月)、実習25回(5～10月) 22品目の管理作業を通じ、栽培技術の基礎習得を支援 ・花きコース(定員5名) 新規の花き就農者を確保するため新設 講義10回、実習20回 ②新規就農者研修[基礎コース] ・研修者の経営目標達成に向けた課題設定支援 ・講義・実習に加え、研修生レポート、面談などを通じた課題解決支援 全11回、35日	受講者アンケート結果 1 新規就農者研修入門コース受講者のアンケートから、講義が役にたった100%、実習が役に立った86%、実習内容が概ね理解できた86%との評価。 2 新規就農者研修受講者の感想 (1) 入門コースについては、自分で手を動かし直接質問でき良かった、講義、実習はわかりわかりやすかったとの感想や、これからすべきことが見え、課題が分かった、農業の可能性、魅力を感じた等の意識醸成に役立ったとの感想があった。一部に、受講生が多く質問が出来ないことがあった等の実施への意見もあった。 (2) 基礎コースでは、経営計画が形になった、同じ志の友人が出来て心強い、農業に対する考え方にたくさん触れることができた、新規就農希望の方にこの研修の良さを伝えたい等の感想があった。
	2 農業者の知識と技術、経営能力の向上 ①農業機械の初歩的な操作の習得 ※前年10回、48名 ・はじめての刈払機:1回、6名 ・はじめてのトラクタ:4回、24名 ・はじめてのトラクタ作業:2回、12名 ・はじめてのけん引:2回、4～8名 ②トラクタ走行研修 ※前年15回、28名 ・大型特殊(農耕用):6回、18名 ・けん引(農耕用):6回、18名 ③農業機械技術向上研修 ※前年1回、21名 農作業安全研修の実施 ④公開セミナーの開催 8回、延べ220名	①農業機械の初歩的な操作の習得 ・はじめての刈払機:1回、計4名 (定員充足率67%) ・はじめてのトラクタ:4回、計17名(71%) ・はじめてのトラクタ作業:2回、計9名(75%) ・はじめてのけん引:2回、計6名(100%) ②トラクタ走行研修 ・大型特殊(農耕用):6回、計13名(72%) ・けん引(農耕用):5回、計10名(56%) ③農業機械技術向上研修 ・JAいわて花巻女性部(北上) 10/24 10名(来校) ・水沢認定農業者連絡協議会 1/26 38名(講師派遣) ・農事組合法人道の郷シンフォニー(一関) 2/24 14名(講師派遣) ④公開セミナー ・8回、283名 労務管理26名、GAP25名、 スマート農業24名、6次産業化31名、 元気の出る農業123名、農業簿記36名、 農業関連税務8名、財務分析10名	①農業機械の初歩的な操作の習得 ・受講日を調整し申込者全員が受講できるよう対応。 ・「はじめてのけん引」受講者を「トラクタ走行研修(けん引)」受講誘導 ②トラクタ走行研修 ・はじめてシリーズ、入門コース、基礎コース受講者へ情報提供し、受講者を掘り起こし。 ・受講日を調整し申込者全員が受講できるよう対応。 ③農業機械技術向上研修 ・開催時期、講師派遣、来校での開催など申込者の希望に沿って柔軟に対応。 ④公開セミナーの開催 農業者の発展段階に応じた、経営発展に役立つ講義などを企画実施 ・労務管理、6次産業化、GAP(9月、3回) ・財務分析、農業関連税務、元気の出る農業(11月、3回) ・農業簿記(1回、12月) ・スマート農業(1回、未定)	

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
2.2 農業に対する 理解の促進	1 園児・児童・中学生の農業への理解醸成 ①園児・児童コース 動植物を見て、触れて、知ることによる、食べ物や農業への理解醸成 10団体、500名 ②中学生コース 農業体験を通じた、職業としての農業の理解醸成 2校、80名	①園児・児童コース ・9団体(90%)、293名(59%) ・幼稚園3、106名・小学校6、187名 ②中学生コース ・2校(100%)、95名(119%) ・萩荘中2年生55名、金ケ崎中1年生40名	①園児・児童コース ホームページやSNSによる情報発信 ②中学生コース 市町村教育委員会を通じた、県内中学校への周知	
	2 花きに親しむ機会の拡大 ① 花きセンター来場者の増加 15,000名(前年 10,588名) ②花のある暮らしの普及拡大 ・花きふれあい研修受講者数 延べ250名、受講率90% (前年159名、受講率86%)	①花きセンター来場者数 16,442名(前年比 155%) ②花きふれあい研修受講者数 延べ208名、受講率74%	①花きセンター来場者の増加 イベント実施による花きセンター認知度向上と魅力ある展示内容の整備 ・花き収穫体験や子供向け企画、雪まつりを新規実施 ・新たに切花温室を公開し、露地ほ場とあわせ、継続的に観覧可能な花きを展示 ・ホームページやSNSによる情報発信 ②花のある暮らしの普及拡大 花きふれあい研修の拡充 ・広報などの情報発信による受講者確保 ・ガーデンコース:6回(前年4回) ・寄せ植えコース:4回(前年4回) ・アレンジメントコース:2回(前年1回) ・クラフトコース:新設2回	

令和5年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
3 農大の機能強化推進 3.1 情報発信の強化	1 多様な情報ツールを活用した情報発信 (1) イベントでの学習内容紹介 ・学習内容や成果の展示(FD 含む) 2件以上 ・農大祭での対面販売の実施 1回 (2) 本校の知名度向上と魅力の発信	(1) 農大祭:各経営科実施 学習展示:農大祭パネル作成、フラワーデザイン展示等実施 (2) ・facebookフォロワー:273人(+123人) ・Instagramフォロワー:584人(+584人) 投稿回数:322回 ・校内トピックス13回投稿 ・農大つうしん4回発行 ・玄関での活動紹介掲示12回 ・農大祭での活動紹介1回(10/28) ・県立図書館団体貸出 266冊(1回)	(1) ・農大祭での対面販売における商品準備、販売方法指導 ・プロジェクト研究の実施、取りまとめ、展示手法指導 ・フラワーデザイン展示 指導(農大行事等) (2) ・facebook、Instagramへの掲載 200回、フォロワー累計数300名(前年150名) ・ホームページの定期更新(随時) ・農大つうしんの発行(4回) ・玄関での活動紹介掲示(12回) ・農大祭での活動紹介(1回) ・県立図書館団体貸出(2回)	3 農大の機能強化推進 B 評価 情報発信や授業評価については、一定の評価が得られた一方で、施設整備や安全管理に関しては既存施設・態勢の修理維持に留まったことから自己評価をBとした。 施設老朽化に伴い修繕等必要な箇所が多くなっているが、引き続き限られた予算・人員で工夫し教育環境の維持・向上に努めることとする。 また、農大施設整備に向けての課題整理や県への要望は進行中であり、今後施設整備の計画作成に取り組むこととしている。 ・学校評価アンケート結果 (5-1)校外への積極的な情報発信 A
3.2 外部評価による改善	1 学校評価結果の活用による学校運営の改善 外部評価懇談会での意見を翌年度業務方針に反映。	・いさわ農村活性化推進協議会との交流1回(農産事例研究) ・ジェラート商品開発(果樹卒業研究) ・ぶどう商品開発(果樹卒業研究) ・金ケ崎町北部生涯教育センター花壇植栽(花き地域連携活動)	・農大祭における餅販売を通じた消費者ニーズ把握の実習 ・集落営農組織や業団体等との意見交換会へ積極的参加 ※いさわ農村活性化推進協議会の意見交換会 ・卒業研究課題の中での地域と連携した取り組みの実施。 ・金ケ崎町のジェラート店と連携した新商品開発(果樹) ・花巻市大迫町のぶどうをテーマとした地域活性化プロジェクト(果樹) ・金ケ崎町北部生涯教育センターの花だん整備(花き)	・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A (3-2)研修、指導力向上の取り組み B
3.3 教職員の能力向上	1 職員研修等によるスキルの向上	・概ね達成できた	・高校訪問研修会(6月～8月に2回) ・教育指導スキルアップ研修会(6月～11月、4回)	・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A
	2 講義資料の共有化 ・外部講師及び職員へ周知され、講義資料が蓄積される。	・外部講師科目を中心に電子化済 ・担任会議等で周知	・外部講師及び職員へ周知 周知:職員全体会議(4月) 点検:定期試験確認時期(9月・2月)に実施 ・共有化の目的及び手段について検討	
	3 授業評価結果の活用 ・授業実施内容の質的向上による学生の授業理解度の向上。 ・授業評価における学生の回答「満足している」の 通年集計 R4年度 68%→R5年度 75%	・授業評価アンケートを実施(9月、2月)、結果を職員にフィードバックし、必要に応じ教育部長による職員面談を実施。 ・授業評価アンケート結果「満足している」95.2%	①授業評価の実施(年2回、前期・後期) ②評価結果に基づく講師との個別面談とフォローアップ・職員研修への参加誘導(通年・随時) ③科目担任外部講師との意見交換(通年・随時)	

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
3.4 効率的な施設 管理と整備の推進	1 大規模施設整備計画の見直しと整備の推進 (1) R6 大規模施設整備計画の見直しと予算要求(7～10月) ①学生寮エアコン設置工事費 R6 再要求 ②本館教育棟改築(建替え)に伴う設置場所等の方針協議 ③岩手県公共施設個別施設計画の更新(随時) (2)大規模施設整備計画の実施 ①敬明寮ボイラー更新工事の実施(11月まで) ②農業研修館長寿命化改修設計(10月まで)	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1) R6 大規模施設整備計画の見直しと予算要求 ①R4 エアコン設置工事で策定した設計書の利活用 ②A 案:既存の旧建物解体跡地、B 案:中庭に建築、C 案:グラウンドに建築 地域活性化事業債の活用による財源確保を検討 ③大規模施設整備計画の検討資料として整備 (2)大規模施設整備計画の実施 ①施行伺(4月中旬)、入札公告(5月中旬)、開札(5月下旬)、契約(6月上旬)、工期(6月中旬～11月上旬) ②建築住宅課に施行依頼	・学校評価アンケート結果 (3-3) 施設設備の整備(教育的見地) B (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B
	2 施設修繕箇所の把握と適切な安全対策の実施 ①岩手県公共施設個別施設計画の更新(再掲) ②安全管理委員会による修繕箇所等の把握と対策の実施(7月、11月)	施設の老朽化に伴う維持管理に対応したが、件数が多く予算確保が課題。	①各施設の構造や主な設備概要及び修繕箇所等の資料として活用 ②管理チェックシートによる安全点検(自己点検、実地点検)	
	3 修繕経費の予算確保 (1)需用費の内訳予算額を見直し修繕費用を捻出	突発的な施設設備障害等について、執行協議を行い補正予算による予算確保を行ったが、件数が多く対応に苦慮した	(1)需用費の内訳予算額を見直し修繕費用を捻出 ①光熱水費の節約取組を促進 ②光熱水費執行状況の見える化(定期的に周知) ③利用施設の集約(冬期間の使用禁止)による、光熱水費の節約	
3.5 危機管理体制 の確保	1 安全・衛生管理の実施 (1)安全管理点検委員会 (2)職員衛生委員会の開催 ①衛生委員会(6月、2月) ②救急救命講習の実施(8月) ③健康推進事業(10月) ④職場安全巡視点検	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1)安全管理点検委員会 (2)職員衛生委員会の開催 ①タイムリーな内容による委員会開催 ②学生の長期休暇等を利用した講習会の開催 ③受講者のニーズに即した健康事業の開催 ④学科は GAP により実施。研修科、花きセンター及び事務局は安全管理委員会で実施。	・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B
	2 災害に強い体制の維持 (1)災害即応体制の維持 ①自衛消防隊編成職員の確認(4月) ②実情に合った訓練内容・参加者の選定(4月) ③非常連絡訓練の実施(4月、10月) (2)学生による自主防衛組織体制の構築 ①学生寮自営消防隊を組織し、防災体制を構築した消防訓練の実施	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1)災害即応体制の維持 ①業務内容の明確化 ②当直専門員及び専任舎監の参加 ③非常招集体制の整備 (2)学生による自主防衛組織体制の構築 ①学生自治会による防災体制の構築	

項 目 (何を)	R5 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R5 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R5自己評価結果
3.6 全量教育の改善の検討	1 全寮教育の改善の検討 (1) 寮運営委員会活動の活性化 ・寮運営委員会の開催支援 5回 ・意見交換会の開催 3回 (2) 自立生活の確立 ・重点清掃指導 6回 (3) 他農大の状況調査及び学生・父母等のニーズ調査実施	(1) それぞれ予定どおり実施済み (2) ガイダンスに合わせて実施(敬明)、前記に加え定期的に実施(清和) (3) ・東日本農業大学校教務総務担当会議(1回)で情報交換を実施済 ・学校評価アンケート(学生・父母対象)実施済	(1) ・寮運営委員会の定期的な開催指導(年5回) ・寮運営委員会と併せた意見交換会の実施(年2～3回) ・寮予算の自主的執行指導・予算管理支出用務(随時) (2) ・寮舎監・日直日誌確認(毎日)及び各担任と連携指導 ・清掃当番表に基づく定期清掃と重点清掃の実施指導 ・金ヶ崎町のゴミ分別ルールの順守指導 ・喫煙・飲酒、在寮札表示等生活ルールの順守指導 (3) 他農大の状況調査及び学生・父母等のニーズ調査実施	・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B (3-5) 防災体制 A
	2 交通安全・事故防止 (1) 交通安全・事故防止啓発 ・交通安全研修実施 2回 (2) 駐車場・駐輪場の適正使用 ・駐車場点検 2回	(1) 全校ガイダンスに合わせて実施 (2) 計画的に実施済み	(1) ・交通安全研修(ガイダンスに併せて実施) ・事故発生時:学生(交通安全委員)による事故防止検討と徹底(自己啓発) (2) ・駐車場・駐輪場の使用状況点検 ・駐車場・駐輪場の環境整備指導(随時)	